

開催地名：徳島県徳島市	
開催日時	令和元年10月5日（土） 10：00～11：30
開催場所	徳島市消防局
語り部	吉田 亮一（宮城県仙台市）
参加者	市民防災指導員及び自主防災組織 約100名
開催経緯	近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えるため、自主防災組織、婦人防火クラブ等は、訓練や研修会に取り組んでいる状況である。今回は市民防災指導員や自主防災組織のリーダーに対し、有益な防災活動についてのお話を伺いたい。
内容	<p>（1）住民主体の地域防災</p> <p>私は仙台市で保育園を経営する傍ら、平成18年より、地元仙台市太白区茂庭台5丁目町内会の防災統轄をつとめている。私が町内会の防災統轄をつとめるようになってから、まずは「想定」以上の備えを積み重ねてきた。それは「最悪の事態を想定」しておけば、様々な事態に対して地域として対応ができると思うからである。地震に限らず、他の大規模災害についても同様であると思っている。だからこそ、それに耐えうる「想定」以上の備えが必要になる。従って、地域の方々には「想定外」というのは通用しないということを常々伝えている。皆さんも是非肝に銘じていただければと思う。</p> <p>私たちの地域は平成18年から、5年間の計画で災害に備えてあらゆる準備をしてきた。まずは「防災マップ」の作成、次にマニュアル本の作成。さらには「自主防災組織」も作り、そして、防災の勉強会の実施を経た上で、防災訓練まで行った。そして、定期開催の防災訓練では、普段自宅や地域にいる大人や高齢者、小学生の子供を中心に行った。なぜなら働いている大人の方々は、平日は地域に居ないケースが多いうえ、職場や現場等の復旧に駆り出されてしまうからである。また、地域内の介助者として、元医師、看護師、福祉保健士、学校の先生等だった方々を募り、災害発生時の協力を約束してもらったこととした。</p> <p>（2）避難所の実際</p> <p>避難所の内容は場所によって全て異なる。（一時避難場所、地域指定避難場所、広域避難場所、福祉避難場所等となっている。）基本的には他所の方が「地域指定避難場所」には行ってはいけないことになっていて、あくまでも地域の方々が優先ということになる。そして、それらへ運ばれてくる「救援物資」についても、とりあえずは避難場所に避難してきている方々のためということになる。例えば、近くで救援物資を積んだトラックがその避難場所へ向かったのが見えたからといって、その避難所に行けば物資をもらえんと思ったら大間違いである。</p>

そして、避難所の中ではどのような役割が必要か。それはまず、様々なトラブルが起こらない様に避難所内のスペースを地域毎に区分けすることである。実際には出入口を1か所にして人数を把握しやすくし、更には高齢の避難者がくつろげるスペースを部屋の両サイドの壁際に設けた、「半島型避難スペース」にした。

(3) 最後に

避難所の運営は地域町内会、自治会の役割であり、その避難所におけるルール設定については地域住民全員が認識しておかなければならず、地域と学校が一体になることが最も重要であると思う。

このように、先であげた「想定以上の備え」を徹底したため、大震災を乗り越え、様々な災害にも対応できることが実証できたと思っている。さらに来るべき災害に備えて、皆さんには以下3点をお願いし、今まで以上に日頃からの防災・減災に対する取り組みを継続していただきたいと思う。

- ・ 家族間での災害発生時の安否確認や連絡方法、非常用持出品についての確認
- ・ 自宅の耐震、家具の固定
- ・ 非常用の備蓄（ローリングストック法）

特別なものを用意するのではなく、普段の生活に組み入れながら、常にある程度蓄えておくことを心がける。



開催地より

震災前から住民主体の地域防災活動がしっかり行われていたこと等の具体的な活動についてわかりやすくお話いただいた。非常に興味深く聞くことができた。また、とても参考になるお話だった。